

けいせん

2012. 3. 15



子どもの成長を想う時、大きな喜びとうれしさを感じると同時に、胸のどんかに切なさやさみしさがあるのはどうしてでしょう。

こんな声をよく聞きます。『ずっとこのままでいてほしい』『いつのしかこんな風に大きくなって。みんながさみしいわ』 たくましく成長しているわが子に対して、そのように思う親の気持ちは、私もよくわかります。『ママがいい〜』『だんなにして〜』とべつべつにっついて甘えてくれるのも、今だけ、と思うと、なおさら、この「今」が大切な時間なのだと愛しくなります。

でも、子どもたちは大きくなりたい！という気持ちでいっぱい。背が伸びたこと、泥で洋服がきれいになるように汚れたこと、昨日までできなかったコマがまわせるように汚れたこと、まだどんぐりにささやかなことでもできた！と感じた時、大きくなっていく自分、成長している自分を実感し、それが自信へとつながっていきます。

『このままでいてほしい』これは子どもの自信を奪ってしまうかもしれません。以前おききた日野原重明先生の言葉を思い出します。「大人は弓、子どもは矢。どんに飛んでいかは子どもが決める。」

卒園し、新しい歩みを始めようとしている子どもたち、その矢はどんに飛んでいこうとしているのでしょうか。不安と期待をもちつつ自分の足で一歩ずつ歩いていこうとしている子どもたちに、私たちは大人がしてあげられることは何でしょうか。あなただけのこととして大切に思っていますよ。あなただけのことを信じていますよ。という揺らぐことのない安心感を与え、信頼して弓をひくことなのかもしれません。目には見えなくても確かに育っている子どもたちの心を信じて、これから成長していくそれぞれの時を待ちつつ、子どもたちを送り出してほしいと思います。

門出の時。卒園生・保護者の皆様、恵泉幼稚園に つよがるお一人おひとりの上には、神様様の祝福がゆたかにありますよう、バチリお祈り致します。